

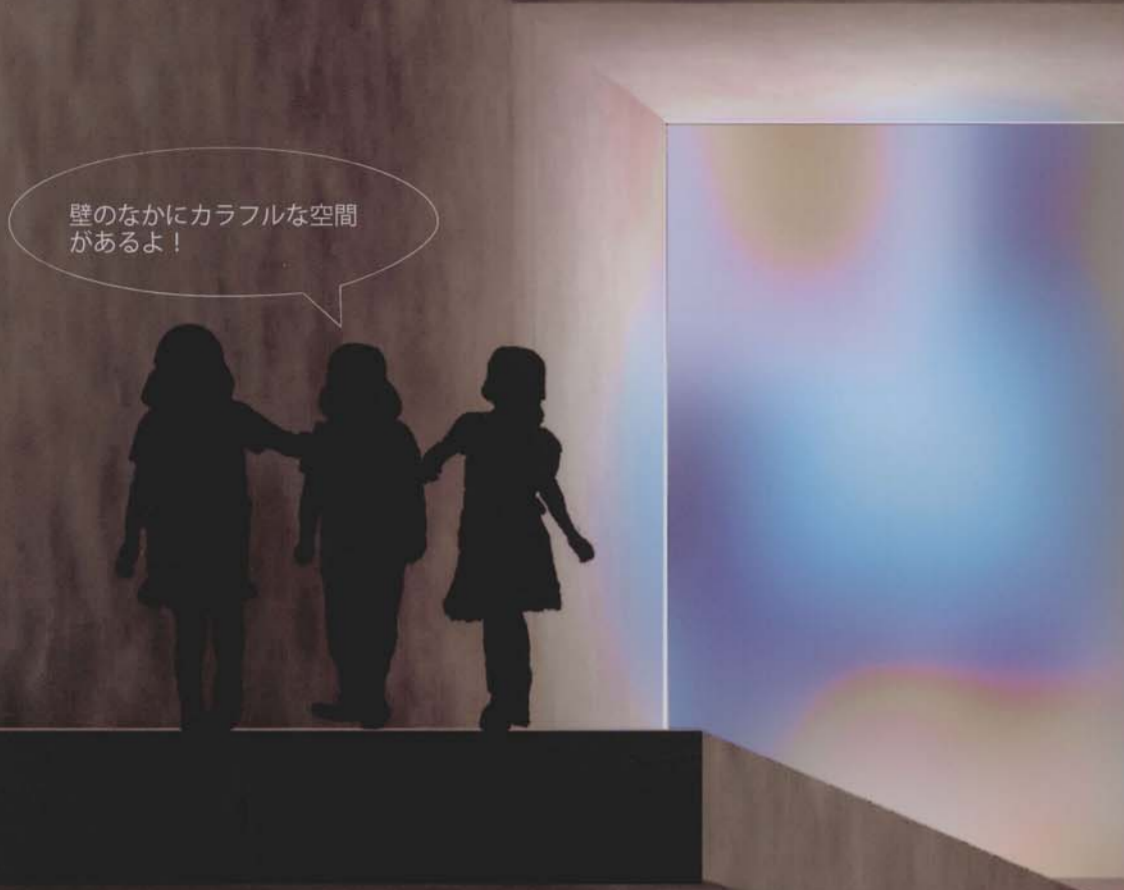
# 歌舞伎町色の保育園

新宿区歌舞伎町に現存する保育園・託児所に対する提案である。

夜間に子供を預かるサービスが人気なこの地域の託児所は、外部に対して閉鎖的にならざるを得ない状況である。

子供が外の世界と隔離された空間で過ごすのではなく、形を曖昧にして取り込むことで色彩豊かな都市と触れ合える場所を作り出す。

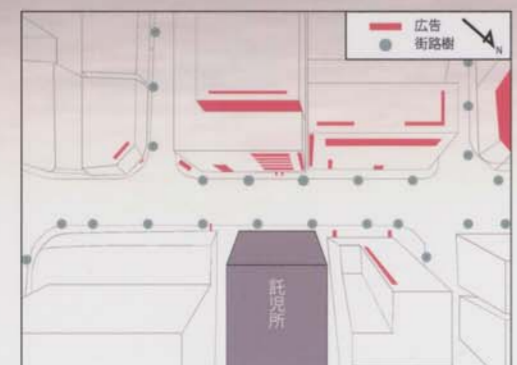
刻々と移り変わる都市の情景が取り込まれ、歌舞伎町だからこそその“豊かな空間”が生まれる。



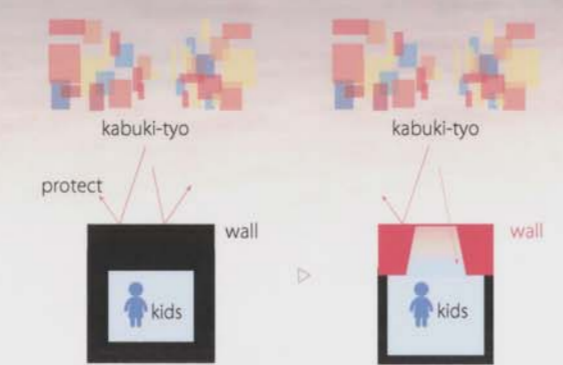
アリストテレスは形で表せないモノを質料と定義し、個々の現実に存在するものは、形相が質料を限定することで成り立つと言った。  
現代においても変わらず形と色は一体となって、そのモノの価値を表している。  
フロストガラスを用いることで、都市の中に溢れている形を曖昧にし、色のみを抽出する。  
既存の価値は解体され、外に対して閉じざるを得ない状況下でも、豊かな空間が作れるだろう。



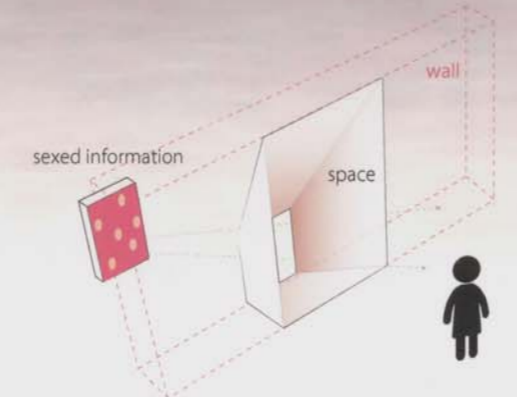
風俗街/歌舞伎町はおびただしい情報に溢れている。同時に色鮮やかな街でもある。



この託児所の周囲には、夜間に輝く広告・看板が立体的に数多く存在している。



外部に対して閉じられた保育園に、都市の色を映し出す中間領域を設ける。



分厚い壁のなかに開口を設け、色のみが入ってくる空間をつくる。



対象物までの距離が遠いほど形が曖昧になる。

